

中央地区その他意見（自由記入）

（第一小学校）

①学区が広くなると各地域の実情に合わせた休校などしづらくなると思うが、青梅大祭など、大切な地域行事に児童生徒が気兼ねなく参加できるよう、うまく配慮をしていただくようお願いします（それらの行事が存続していればですが）。

①施設一体型の大規模校を設置する場合、保護者会や全校行事の時に徒歩圏内以外の保護者が車で来校できる十分な無料駐車場を確保をお願いしたいです。

①施設一体型の大規模校を設置する場合、全校生徒が（順番制などではなく）毎日自由に外遊びができる広さの校庭を設置していただきたいです。

①文部科学省が推奨する規模の学校にどうしてもなじめない子供たちが通えるよう、成木小学校・第七中学校は現制度のまま残しても良いかもしれません。

①未来の子どもたちのより良い教育環境のために最善の案が作成されますことを期待しています。よろしくお願ひいたします。

③私は生まれた時から日向和田に住んでいます。父・子供も一小・一中でした。

日向和田の児童は、電車で通学なので、公共機関を使うことは抵抗ありません。

他の地区も遠くなる学校への低学年の配慮はお願いしたい。

朝は高学年児童と一緒に面倒をみててくれるが、帰りは遠い道程を一人で帰る児童が出てくるままでいくのは、中学については、体力もあるためある程度距離があっても問題ないと思が、保護者の交通費負担がどうなのかと思った。

③全員が納得する案は見つからないと思った。少しでも多くの方に納得くしていただくことで、前に進めると感じた。

③第一支会なので西になるには…と思いました。

④全体の意見

学校再編は避けられない必要なことですが、一番重視すべきはコストではなく、教育の質の確保だと考えていますので適正規模と適正配置を重視した再編を進めていただきたいと考えています。

また、将来推計は数値の検討となることに異論はありませんが、特別支援学級の配置など推計困難な要素もあるので、ある程度の汎用性を考慮し、コストを重視するあまり「青梅の将来を担う子供たちの教育」を2番目に考えないようお願いいたします。

すべての再編案共通の課題

西部地域の適正規模維持のため、日向和田地域が分離されている。これは、第一支会を分断するとともに、青梅大祭という地域にとって文化的歴史的なつながりを分断することになる。また、子ども達が郷土愛を育む祭りと校区の差異がさらに拡大することで、子ども達が青梅に「住み続けたい」という意識を低下させる危険性が拡大することが懸念されます。

このほか、学校の整備・維持コストを考えるのであれば、指導要領で実技は不要だと思いますので、学校プールは必須ではないと考えます。

⑤2059年以降も少子化が進むことが予想される。

学校再編は大変な事業である。

という2点と、各案のメリット・デメリットを考えると、個人的には「3地区再編案B」がよいと思う。一方で高齢者は増えていくので、旧校舎の活用方法や遠方の児童・生徒及び高齢者が行動しやすい交通機関の検討も必要です。

(第四小学校)

①提出された各案に細かな意見はありません

②再編における効果において「適正規模、適正配置、小中一貫教育」の市、教育委員会の目指すところを明確にして頂いたのちに意見聴取をした方が良かったと思います。

③地区再編案Bにおいて1校を活用をするのではなく、再編される地区の中央付近にある西中での配置が望ましいのではと考えます。

④個人的には中央地区再編案B、3地区再編案Bの施設一体型小中一貫校が良いです。

⑤正直申しまして児童数が予測を下回る気がします。まだ先のことですから分かりませんが、もしかすると小中一貫校で3校や1校になる可能性も考える必要があると思います。

⑥これからの中等教育は小中一貫教育を施設一体型で推進していくことが重要です。その時の理念として、OECDが2000年代前半に

1 社会に参画するために必要な手段を相互作用的に活用する能力

2 多様な社会グループにおける人間関係形成能力

3 主体的に行動する能力、の育成が重要です。

⑦青梅市の人口減少は避けられないため学校再編は必要。

小中一体型一貫校も合理的だし子供たちにも良いことだと思います。

ですが、通学等子供達の不利益にならないよう考えて頂きたい。

例えば、分校制度を作るとか。

又、同一地域「同一自治会」の子供達は同じ学校に通えるよう配慮願いたい。

⑧中央地区の再編案ではありますが、ひとつひとつのメリット、デメリットを考えることが難しかったです。

また、再編案によって、再編地域の範囲の違い（中央地区、西部地区、北部地区）もあったので、自分たちの現在の学区の小学校、中学校を中心、優先に考えてみました。

まず、ニンゲンというのは、群れで生活する動物なので、たくさんでワイワイ生活するのが本来の形なのかなと思います。

特に成長過程のこどもは、同年代や少し上の年代の人から様々な刺激を受け、多くの人やモノから影響を受けて大人になっていくのだと思います。

これから確実に人口減少は続き、子供の数も減ります。

教える先生も不足してきたり、建物の維持管理、ましてや新築などは、税収減が明らかなので、難しくなっていくと思います。

ということで、基本的にはE案にあるような広範囲を集約し、さらに小学校と中学校をも一緒にする小中一貫校を作ることが望ましいと思います。

通学時間が長時間化するという心配は、スクールバスを使用することで解消できるかと思います。（小規模で寮生活などもありかもしれません）「学校へは歩いて行く」という東京都に暮らしている私たちの当たり前は、地方や、世界を見てみるとだいぶ違っていると思います。

学校が、集落の中心で、精神的、物理的にも拠り所となっていることは否定できませんが、当の子どもの将来を考えると、やはり学校を集約して、たくさんの友だち、たくさんの先生、たくさんの大人に揉まれた方がいいのでは、と思います。群れる動物ですから。

(吹上小学校)

- ①青梅市における小、中学校の統廃合は、少子化などの理由によるそれぞれの学校規模の縮小や学校施設の老朽化による建て替え計画を実現するためには必要なことであると考える。そのような中でも、単に数合わせに終わることなく、地域の特性が教育に活かせるようにすること。そして何よりも子どもたちが楽しく充実した学校生活を送れるような再編計画となることを願っています。
- ②学校の規模よりも交通の便利さを第一に考えて再編すべきと考える。御岳山・成木極指・柚木・富岡等地理的要因を考慮すべきと思う。
- ③すべての案に関して、小中学校の適正配置の中で、通学所要時間は小中学校ともに概ね1時間以内とする、とあるがせめて30分以内としたい。（御岳山地区はやむを得ないかも知れないが）
- ④既存の交通機関（バス・電車）は運行本数が少なく、今後の運行には更なる不安があることや、児童・生徒の通学における安全確保の観点からも、スクールバスの運行について考慮が必要と考える。
- ⑤現状の学校規模の基本方針で、望ましいとされる各数字が必要なのかもしれません、もう少しこれからの未来像で、子どもたちを優先したビジョンで考えていっていただきたいです。
- 子どもの数が減るからまとめてしまうという昭和的な考えではなく、青梅という地域の特性を生かした、多世代交流もできるような校舎造りを考えていってもよろしいのではないかと思います。
- 多摩材を活かして校舎。そしてその場所には、小中学生（特支も含む）は、もちろんのこと、地域の高齢者の方々も集まる多世代の学び舎がこの先、できていっても良いのではないかと思います。

(第一中学校)

①一地区だけの情報では判断しかねるので、他地区の計画並びにご意見を共有して頂きたいです。

①建設費用の捻出が懸念されます。

一例として、延床面積：7,377.73 m²（たぶん一小も同じくらいの床面積だと思います）で計画をしている目黒区立目黒西中学校新築工事では、79億強の予算で落札者がせず、≒15%増額した93億強での再入札という状況です。

これは決して特異な例ではなく、日本全国で同様の状況となっています。

令和11年度に142億予算で計画している文化ホールの計画と相まって、100億規模の設備投資を継続的に行えるのかが懸念されますので、他事業計画と併せての事業完了までの予算案をお示し頂きたいです。

①仮に不要となった学校が生じた場合、その施設をどうするのか？（リノベーション？解体？）も計画に盛り込んで頂きたい。

地域の治安・安全確保の意味からも、十小のような事にはならないで頂きたいです。

因みに、解体工事も費用は高騰しています。

いずれの建築物もアスベストが含まれている年代ですので、費用・時間共に要する事をお含みおき下さい。

①過去にもあまり例のない大型改革なので、これまでのルール（教育委員会縛り）に基づいての計画策定にはどこかしら無理（歪み）が生じるのではないかでしょうか？

近隣自治体（奥多摩町・飯能市等）との連携も模索されると、もっと血の通った改革になる事が期待できると思います。

①（共通事項として）一定距離以上の通学時間を要する児童・生徒にはスクールバス運行の措置が必要と思われます。

おばつかないバスの運行本数、鹿や雪に脆弱なJR、ましてや熊も出るこのご時世、安全確保の観点からもご一考頂きたい。

言い方を変えれば、適正な通学対策が取れればクリアになる面も多いかと思われます。

①第一支会（青梅大祭）を軸に考えた場合、子供たちの分断は少なからずインパクトが考えられる（中央地区再編案A・B案）

①考察の軸が「適正規模」にあり、財政状況を考えれば当然の事ではあるが、そもそもこれが子供たちにとって適正な考え方か？からの議論が必要では？

地域と学校は切っても切れない縁で共存しているものであり、「大人の事情」を第1軸に置く考え方には違和感がぬぐえません。

一案として、現在の学区を維持しつつ、各小学校を施設一体型の小中一貫校とする事も考えられるのは？

①総じて、教育委員会、審議会の枠だけで計画を確立させる事は難しいと思います。

各地域の文化、生活圏、街づくり、地域コミュニティー、予算等々、とてもとても複雑なマトリックスを解く必要がありますので、市全体として取り組むべき課題かと強く思います。

②複数クラスのメリットはあると思うが、小規模校ならではのメリットもあると思います。「青梅らしい教育とは、を市民に幅広く」意見を聞いてほしい。

②地域から学校がなくなると子供たちが少なくなってしまいます。教育、自然環境を生かした再編を望

みます。

②子供たちに1時間近い通学は無理だと思います。交通網を考えた子供に負担ない通学の再編を望みます。

③再編案に対する意見書の回答はできませんので、意見を述べさせていただきます。

大前提で大勢待市長の「子供真ん中」という考え方、青梅市教育委員会としての小学校、中学校、(保育園、幼稚園)教育のビジョンはあるのでしょうか?

1. 学校の配置は青梅市の都市としての魅力づくりの都市計画の一貫して考えるべきだと思います。青梅市への転入者(子供を持つ親)はまずは、小中学校の距離や地域コミュニティーを考えて住む場所を考えます、住宅の建設(建売等)も一緒だと思います。配置計画に失敗すると、過疎化が進行して都市の形態が変化して死んだ町になる可能性もあります。

2. 都市の発展は交通機関(青梅市の場合)青梅・東青梅・河辺駅を核として都市を今以上に発展させるべきだと思います。また、現在の支会のコミュニケーションも大切にすべきだと思います。

3. 一つの案として、青梅駅を核とする都市づくりを考えたとき、青梅第一小学校を小中一貫校にして、西分町から西地区は御岳山も含め一つの学区と考えるとよいと思います。すでに青梅線(青梅止まり)、バス網も青梅駅を起点にあり、通学時間帯等には、交通機関への働きかけをして補完していく必要があると思います。

4. ~~代~~ 小学校も同様に現況のバスルートを活用して考えていいけると思います。

5. まだまだ書き足りませんがこのくらいにしておきたいと思います。

④小中一貫教育の推進を前提に施設を考えているようですが、はたして、子供にとってそれが良いのか悪いのかよくわかりません。自分なりに調べた内容では、小学生から定期試験の導入や、教科担任制など、低学年の小学生には無理ではないかと思っています。単に児童・生徒数や通学時間だけでなく、子供の学校生活のこともよく考慮して施設のあり方を進めていただきたいと思います。

⑤メリットは、子供もたちよりも市や学校側のメリットが多く、子供たちのメリットがあまりないような気がする。

⑤デメリットはどの案も子供たちの通学時間が延びてしまう。

近年、猛暑が続く中で小学1年生が45~70分かけて通学することをどう思いますか。説明会で、担当の方が、公共交通などに対して「乗る人が増えれば本数が増えるのではないか」と仰ってましたが、統合は現実味があることですが、公共交通に関しては仮定の話でした。

バスも1時間以上来ない地域もあります。その説明はいかがなものでしょうか。スクールバスや公共交通の本数の確保など真剣に考えて下さい。通学の安全性を確保して下さい。短縮授業などの際、バスに遅れたら1時間以上待つ状況は親として心配でしかありません。定期代等の個人の負担も増えるでしょう。統合は仕方ないのでしょうが、子供たちのことを考え通学手段の確保を要望します。

(吹上中学校)

- ②小中学校に設置されている特別支援学級も再編成に伴い合併吸収等されることになるのか？
- ②今後地域の保護者や住民の方々に意見を聞く機会を設ける予定はあるのか？
- ②審議会の検討事項や決定事項について、市のHPに掲載する以外の方法で市民に知らせる事を検討しているのか？
- ②議員の皆さんには審議会の答申の最終版を提示するのか、途中経過についても提示していくのか？
- ②最終的に市議会の承認を得ることが必要になると思いますが、万が一、審議会での答申が認められない等、大幅に改善を求められるようなことが生じた場合は、どのような対応をされるのか？（教育委員会と審議会で再度検討するのか、学校運営協議会の段階までおろして検討するのか？）
- ②再編成（学校規模、学校の配置通学、小中一貫教育）以外の検討事項（学校名、校章、校歌、PTA等、それに伴う費用等）については、審議会等での扱いではなく、教育委員会、学校、地域等で検討・決定していくことになる？
- ③少子化・人口減少の今日、これからの中学校は小中一貫教育と施設一体型で推進していくことが重要です。その時の理念として、OECDが2000年代前半に
1 社会に参画するために必要な手段を相互作用的に活用する能力
2 多様な社会グループにおける人間関係形成能力
3 主体的に行動する能力、の育成が重要です。
- ④子供が通えるかを念頭に再編して欲しい